日記

菅田　忠志

私には日記を書く習慣はない。特に何かを書き残すこともなく、今までの人生をなんとなく大まかにすごしてきた。ここにきて、もし当時だったらこう書いていただろうと、それぞれの時期に描き残してきた心のスケッチブックをひもときながらつづってみよう。

しょうわ20年3月○日（　）くもり

きのうはこわいこわい1にちでした。いつもあそんでくれたとなりのけんにいちゃんが、おうちのひとみんなでそかいというところにいってしまいました。

よるになっておかあさんとおねえちゃんと3にんでごはんをたべていたら、「グワーン　グワーン」とサイレンがなりました。

あわててておかあさんは、でんきのかさにくろいふくろをかぶせてから「はようぼうくうごうにもぐり」といってせなかをおされ、ゆかしたのぼうくうごうにあたまやかたをうちながらすべりこみました。

くさくてくらくてきもちのわるいところです。すきまからかみなりのようなひかりがみえました。かみなりのようなおともきこえていました。いつもよるなのでみたことはないけれど、ビー29というまっくろいひこうきがとんでくるんだそうです。こんばんもこわいばんになるのはいややなあ。

昭和42年3月19日（　）　晴れ

あわただしかった夜が明けた。女の子だった。かなり難産だったらしいがよく頑張ってくれた。産科の先生が「随分へその緒が短い赤ちゃんだったので、お母さんは大変でしたよ」と説明してくださった。

名前はいろいろ考えてはいたが、生まれて

くるまではなかなか決められずにいたのに生まれるとすぐに決まった。自然に親しみ、こころ豊かな子供に育ってほしいとの思いを込めて、「瑞穂(みずほ)の国」と「穂高岳」の中の文字をとり「瑞穂」と名づけた。気に入ってくれるかな。

平成11年3月31日（　）　晴れ

今日はまさしく晴れ晴れとした日となった。《定年退職は企業戦士の終着駅》というがそんなことはない。この先がおもしろいローカル線なのだ。自分で好きなところへ線路を引いてゆけばよい。もちろん各駅停車しか走らないし、ダイヤも曜日ごとに変わるのもおもしろい。ときには人さまのローカル線にも乗り入れてみよう。自分の路線では見られない、変わった風景も楽しませてもらえることだろう。

さあ《関心と好奇心》行きの切符を持って今日も出かけよう。

線路が無くなったところが本当の終着駅なのだから…。